



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年2月8日

上場会社名 株式会社 ケアネット
コード番号 2150 URL <http://www.carenet.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大野 元泰
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部財務部長 (氏名) 角谷 芳広

TEL 03-5214-5800

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,310	9.0	52	—	50	—	48	—
24年3月期第3四半期	1,202	△8.9	△177	—	△177	—	△389	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	926.12	906.68
24年3月期第3四半期	△7,487.70	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	1,323	1,094	82.4	20,965.67
24年3月期	1,350	1,045	77.2	20,034.78

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 1,091百万円 24年3月期 1,041百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	290.00	290.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、平成25年2月8日に公表いたしました「平成25年3月期通期個別業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,786	12.1	64	—	57	—	50	—	967.22

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、平成25年2月8日に公表いたしました「平成25年3月期通期個別業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第5条の4に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 6「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項「(1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	52,460 株	24年3月期	52,420 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	419 株	24年3月期	419 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	52,014 株	24年3月期3Q	52,001 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想および配当予想につきましては、平成24年5月10日に公表いたしました内容から変更しております。詳細につきましては平成25年2月8日付の「平成25年3月期通期個別業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況等の変化により、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	7
4. 四半期財務諸表	8
(1) 四半期貸借対照表	8
(2) 四半期損益計算書	9
第3四半期累計期間	9
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11
5. 補足情報	13
注記事項	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州金融危機や長引く円高などの影響を受け、依然として不透明な状況で推移しております。

医療業界においては、平成22年度の診療報酬改定により、報酬配分の見直しが行われたことから、開業医と勤務医の報酬格差の是正が行なわれております。しかしながら、医師不足や医師の過重労働の問題は未だ解決がされておらず、そのようななかでも医師は医療の質の向上が求められ、多忙を極めております。

このような状況のもと、患者に質の高い医療を提供し続けるためには、医師が日頃から医療情報の収集や学習を欠かさないことが重要であり、限られた時間のなかで効率よく習得できるコンテンツサービスに高いニーズがあります。

一方、製薬業界においては、薬価マイナス改定やジェネリック医薬品の使用促進などの医療費抑制策が推し進められ、依然 国内外の製薬企業の収益環境は厳しい状況にあります。そのため、製薬企業においては、新薬の研究開発や営業・マーケティング活動における生産性向上が重要視されており、経費が削減されるなかで、より生産性の向上に資する厳選されたサービスに高いニーズがあります。

このような背景のなか、当社は、特に製薬企業が抱える営業・情報提供活動の課題解決を事業機会と捉え、積極的に対応しております。前期(平成24年3月期)には、「MR P l u s[®]」を市場投入したことにより、プライマリケア領域の大型薬剤からスペシャリティ領域で上市が続いている新薬まで、幅広い領域でマーケティング支援を行なうことを可能といたしました。これにより当社は、「MR P l u s[®]」を今後の主力サービスと位置づけ、製薬企業への導入に努めております。

これらの活動を行うなか、当第3四半期累計期間においては、売上高は1,310百万円(前年同四半期比9.0%増)、売上総利益は866百万円(前年同四半期比22.1%増)、営業利益は52百万円(前年同四半期は営業損失177百万円)、経常利益は50百万円(前年同四半期は経常損失177百万円)となりました。これらの結果、四半期純利益は48百万円(前年同四半期は四半期純損失389百万円)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 医薬営業支援サービス

当サービスにおいては、「eディテリング[®]」の実施件数は7件(前年同四半期は22件)、売上高は181百万円(前年同四半期比54.1%減)となりました。また、「MR P l u s[®]」の売上高は476百万円(前年同四半期比133.4%増)、「スポンサードWebコンテンツ制作」の売上高は240百万円(前年同四半期比27.5%増)となりました。

この結果、医薬営業支援サービスの売上高は913百万円(前年同四半期比10.3%増)となりました。

② マーケティング調査サービス

当サービスにおいては、「eリサーチ[™]」の実施件数が67件(前年同四半期は85件)となりました。

この結果、売上高は195百万円(前年同四半期比6.6%減)となりました。

③ 医療コンテンツサービス

当サービスにおいては、医師向け教育コンテンツ「ケアネットDVD」の売上高は129百万円(前年同四半期比6.6%増)、インターネットによる動画配信サービス「医楽座」の売上高は71百万円(前年同四半期比67.1%増)となり、医療コンテンツサービスの売上高は201百万円(前年同四半期比22.3%増)となりました。

また、医師・医療従事者向け医療専門サイト「ケアネット・ドットコム(CareNet.com)」においては、医師会員獲得および維持を目的に、前期に引き続き積極的に投資を行っております。これにより、当第3四半期累計期間末の医師会員数は11万2千人(前年同四半期は10万4千人)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において入手し得る情報に基づいて当社が判断したものであります。なお、今後の予測しえない経済状況の変化等様々な要因があるため、その結果について当社が保証するものではありません。

① 経営成績および財政状態を分析する上での視点

当社は、主として、次の3つの視点から経営成績および財務状態を分析しております。

- a. 成長性の視点：当社の中心的なサービス「eディテリング[®]」および「MR P l u s[®]」の成長性
- b. 収益性の視点：売上総利益率、および 営業利益率等の改善状況
- c. 健全性の視点：流動性を初めとする財務基盤や資金調達能力に資する要因

② 成長性

当社は、医師会員の協力を得ることにより、製薬企業向けに「医薬営業支援サービス」および「マーケティング調査サービス」を提供し、一方 医師会員の獲得を目的に医師に向けて「医療コンテンツサービス」の提供を行っております。これらサービス別の売上高と売上構成比の推移の状況は、次のとおりであります。

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第3四半期 累計期間		第18期 第3四半期 累計期間	
	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年12月		平成24年12月	
決算年月	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
医薬営業支援サービス	1,757	66.3	1,499	69.0	981	60.2	1,103	69.3	828	68.9	913	69.7
eディテリング [®]	987	37.3	794	36.5	715	43.9	479	30.1	394	32.9	181	13.8
MR P l u s [®]	—	—	—	—	—	—	262	16.5	204	17.0	476	36.4
スポンサーWeb コンテンツ制作	683	25.8	638	29.4	200	12.3	299	18.8	188	15.7	240	18.3
その他	86	3.2	66	3.1	65	4.0	61	3.9	40	3.3	15	1.2
マーケティング調査 サービス	449	17.0	259	11.9	249	15.3	259	16.3	209	17.4	195	14.9
eリサーチ [™] 他	449	17.0	259	11.9	249	15.3	259	16.3	209	17.4	195	14.9
医療コンテンツサービス	442	16.7	415	19.1	398	24.5	230	14.4	164	13.7	201	15.4
CareNetTV・ メディカルCh. [®]	228	8.6	203	9.3	180	11.1	—	—	—	—	—	—
医楽座	—	—	—	—	—	—	57	3.6	42	3.6	71	5.5
ケアネットDVD他	213	8.1	212	9.8	217	13.4	172	10.8	121	10.1	129	9.9
合計	2,649	100.0	2,173	100.0	1,629	100.0	1,593	100.0	1,202	100.0	1,310	100.0

(注) 医師向け教育番組「ケアネットTV・メディカルCh.[®]」は、平成23年4月からインターネットによる動画配信サービス「医楽座」に移行しております。

(ア) 成長性の鍵となる医師会員数について

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第3四半期 累計期間		第18期 第3四半期 累計期間	
決算年月	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年12月		平成24年12月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半 期比(%)		前年同四半 期比(%)	
医師会員数(千人)	88	+11.2	95	+8.1	100	+5.4	106	+5.9	104	+4.1	112	+7.9

当第3四半期累計期間において、医師会員数は約6千人増加し、当第3四半期累計期間末の医師会員数は11万2千人(前年同四半期末は10万4千人)となりました。当社は、医師会員の増加が、「eディテリング®」および「MR P l u s®」の各サービスの品質を高め、売上高を伸ばす要素であると考えております。

なお、この点を示す指標については、下記「(イ)「eディテリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計の成長について」のとおりであります。

(イ) 「eディテリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計の成長について

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第3四半期 累計期間		第18期 第3四半期 累計期間	
決算年月	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年12月		平成24年12月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半 期比(%)		前年同四半 期比(%)	
「eディテリング®」および「MR P l u s®」売上高合計(百万円)	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	742	+3.8	599	△5.5	657	+9.8
「eディテリング®」												
売上高(百万円)	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	479	△33.0	394	△37.7	181	△54.1
実施件数(件) (注)	14	△36.4	30	+114.3	41	+36.7	28	△31.7	22	△40.5	7	△68.2
実施企業数(社)	7	△12.5	15	+114.3	13	△13.3	12	△7.7	11	△15.4	4	△63.6
「MR P l u s®」												
売上高(百万円)	—	—	—	—	—	—	262	—	204	—	476	+133.4
実施企業数(社)	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	7	+250.0

(注) 「eディテリング®」実施件数は、各期においてサービス実施を開始した件数であります。

当第3四半期累計期間において、「eディテリング®」の実施件数は7件(前年同四半期比68.2%減)と減少し、売上高は181百万円(前年同四半期比54.1%減)となりました。一方、「MR P l u s®」の実施企業数は7社(前年同四半期比250.0%増)となり、売上高は476百万円(前年同四半期比133.4%増)となりました。

これらの結果、「eディテリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計は657百万円(前年同四半期比9.8%増)となりました。今後も、「MR P l u s®」の拡販および「eディテリング®」の売上高維持に努め、「eディテリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計を伸ばしてまいります。

③ 収益性

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第17期 第3四半期 累計期間	第18期 第3四半期 累計期間
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成23年12月	平成24年12月
売上総利益率(%) (注) 1	46.0	33.9 (12.1%減)	54.0 (20.1%増)	58.6 (4.6%増)	59.0 (3.4%増)	66.1 (7.1%増)
販売費及び一般管理費 比率(%) (注) 2	38.0	40.4 (2.4%増)	77.6 (37.2%増)	75.8 (1.8%減)	73.8 (4.9%増)	62.1 (11.7%減)
営業利益または営業損失 (△) (百万円)	213 (△46.8%)	△140 (-)	△383 (-)	△273 (-)	△177 (-)	52 (-)
営業利益率(%) (注) 3	8.1	△6.5 (14.5%減)	△23.6 (17.1%減)	△17.2 (6.4%増)	△14.8 (-)	4.0 (-)

(注) 1 売上総利益率は、売上総利益を売上高で除して算出しております。

2 販売費及び一般管理費比率は、販売費及び一般管理費を売上高で除して算出しております。

3 営業利益率は、営業利益を売上高で除して算出しております。

4 表中の() 書きは、前年同期比であります。

当第3四半期累計期間は、売上高1,310百万円(前年同四半期比9.0%増)、売上総利益率は66.1%(前年同四半期比7.1ポイント改善)、販売費及び一般管理費比率は62.1%(前年同四半期比11.7ポイント改善)となり、営業利益は52百万円(前年同四半期は営業損失177百万円)、営業利益率は4.0%(前年同四半期は△14.8%)となりました。

④ 健全性

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第17期 第3四半期 累計期間	第18期 第3四半期 累計期間
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成23年12月	平成24年12月
総資産額(百万円)	2,870	2,286	1,823	1,350	1,393	1,323
純資産額(百万円)	2,457	1,999	1,524	1,045	1,135	1,094
自己資本比率(%)	85.6	87.3	83.4	77.2	81.2	82.4
現金及び現金同等物 (百万円)	689	402	500	354	265	766
営業活動によるキャッシ ュ・フロー(百万円)	293	△69	△198	△307	△246	△72
流動比率(%) (注) 1	620.3	732.0	517.1	405.2	500.7	541.4
流動資産比率(%) (注) 2	89.3	91.7	79.7	86.7	86.8	87.3
有利子負債残高 (百万円) (注) 3	0	-	-	-	-	-

(注) 1 流動比率は、流動資産合計額を流動負債合計額で除して算出しております。

2 流動資産比率は、流動資産合計額を総資産額で除して算出しております。

3 第14期の有利子負債残高は、未経過リース料残高のみとなっております。

当第3四半期累計期間末時点での現金及び現金同等物残高766百万円、自己資本比率82.4%の水準、および有利子負債残高なしの各指標から健全性を確保していると判断しております。

⑤ キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、前事業年度末と比較して411百万円増加し、766百万円(前事業年度末比115.8%増)となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は、72百万円(前年同四半期は246百万円の支出)となりました。これは、主に税引前四半期純利益50百万円の計上、減価償却費19百万円などによる資金の増加と、売上債権の増加81百万円、仕入債務の減少15百万円、未払金の減少27百万円および未払費用の減少13百万円などによる資金の減少との差引きによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により得られた資金は、479百万円(前年同四半期は15百万円の収入)となりました。これは、主に定期預金の払戻による収入500百万円などによる資金の増加と、自社利用ソフトウェア開発等による支出20百万円などによる資金の減少との差引きによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、0百万円(前年同四半期は1百万円の支出)となりました。これは、株式発行による収入と、配当金の支払いによる支出の差し引きによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想においては、「MRP1us[®]」などの伸長により黒字に転換する見込みですが、「eディテリング[®]」の売上減少および新サービスの立ち上げが遅れていることから、売上高、営業利益、経常利益および当期純利益は予想を下回る見込みとなります。

以上の結果、通期の業績見通しは、売上高1,786百万円(前年同期比12.1%増)、営業利益64百万円(前年同期は営業損失273百万円)、経常利益57百万円(前年同期は経常損失267百万円)、当期純利益50百万円(前年同期は当期純損失479百万円)となる見込みであります。

詳細は、平成25年2月8日付「平成25年3月期通期個別業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、平成24年5月10日公表の業績予想との差異は以下のとおりであります。

平成25年3月期の業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,203	178	178	161	3,109円92銭
今回修正予想(B)	1,786	64	57	50	967円22銭
差異(B-A)	△417	△114	△120	△111	—
増減率(%)	△18.9	△64.2	△67.6	△68.9	—
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	1,593	△273	△267	△479	△9,223円56銭

(注)上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、直近3期において営業損失、および営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが生じております。これらの主な要因は、「eディテリング[®]」などの既存サービスの売上高が年々減少するなか、新サービスである「MRP1us[®]」、「レジデントJapan」および「ProファーマCH」による売上高が、計画どおりに獲得できなかったことにあります。

これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が発生しております。当社は、当該状況を解消するため、引き続き下記の対応策を進めてまいります。

なお、当社は事業活動を継続するための必要十分な手元資金を保有しております。

a. 新サービス売上高による業績回復

前期（平成24年3月期）にサービスを開始した「MRP1us[®]」においては、今後の売上高の拡販に注力し、また病院向け教育メディア「レジデントJapan」および調剤薬局向け教育メディア「ProファーマCH」の2つのサービスにおいては、本格稼働を実施することにより、業績回復を図り、その後の中期においても、利益成長を図ります。具体的には、「MRP1us[®]」は、既に導入した製薬企業の成果実績を基に営業・マーケティング活動を展開していくことに注力してまいります。また、「レジデントJapan」および「ProファーマCH」は、サービス導入のために、営業体制の強化および導入先でのサービス満足度を高めていくことに注力してまいります。

b. 既存サービス売上高の維持、または増収

既存サービスである「eディテリング[®]」および「eリサーチ[™]」は、ここ数年間において売上高の減少傾向が続きました。これらのサービスは、売上総利益率の高いサービスであり、売上高の減少傾向は、営業利益に大きな影響を与えております。当期（平成25年3月期）においては、引き続き営業部門および制作部門の人員補強を行うなどの体制強化により、減少傾向であったこれらサービスの売上高の維持、または増収を図ります。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	854,917	766,007
受取手形	14,363	—
売掛金	250,415	346,554
たな卸資産	※1 30,486	※1 18,882
前払費用	18,693	23,455
その他	1,808	324
流動資産合計	1,170,685	1,155,224
固定資産		
有形固定資産	31,874	25,611
無形固定資産	36,323	38,941
投資その他の資産	111,502	※2 104,077
固定資産合計	179,700	168,630
資産合計	1,350,385	1,323,854
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,554	41,239
未払法人税等	7,283	5,434
前受金	40,912	23,682
ポイント引当金	56,219	47,628
その他	127,932	95,386
流動負債合計	288,902	213,373
固定負債		
繰延税金負債	3,496	3,097
資産除去債務	12,737	12,889
固定負債合計	16,234	15,987
負債合計	305,137	229,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	591,321	591,821
資本剰余金	895,884	471,877
利益剰余金	△424,506	48,170
自己株式	△20,865	△20,865
株主資本合計	1,041,833	1,091,004
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△4	69
評価・換算差額等合計	△4	69
新株予約権	3,419	3,419
純資産合計	1,045,248	1,094,494
負債純資産合計	1,350,385	1,323,854

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	1,202,090	1,310,664
売上原価	492,585	444,413
売上総利益	709,504	866,250
販売費及び一般管理費	887,138	813,273
営業利益又は営業損失(△)	△177,633	52,976
営業外収益		
受取利息	1,404	635
為替差益	—	5,492
未払配当金除斥益	3,706	924
その他	1,205	635
営業外収益合計	6,316	7,687
営業外費用		
貸倒引当金繰入額	—	10,081
為替差損	6,119	—
その他	351	0
営業外費用合計	6,471	10,081
経常利益又は経常損失(△)	△177,788	50,583
特別損失		
減損損失	209,726	—
特別損失合計	209,726	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△387,515	50,583
法人税、住民税及び事業税	2,850	2,850
法人税等調整額	△997	△437
法人税等合計	1,852	2,412
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△389,367	48,170

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△387,515	50,583
減価償却費	42,152	19,642
減損損失	209,726	—
ポイント引当金の増減額(△は減少)	32,059	△8,591
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	10,081
受取利息及び受取配当金	△1,404	△638
為替差損益(△は益)	5,793	△5,492
売上債権の増減額(△は増加)	△107,132	△81,774
たな卸資産の増減額(△は増加)	6,765	11,604
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,726	△15,314
未払金の増減額(△は減少)	△35,408	△27,281
未払消費税等の増減額(△は減少)	4,378	17,233
未払費用の増減額(△は減少)	△23,233	△13,968
前受金の増減額(△は減少)	13,983	△17,229
その他	△1,610	△9,372
小計	△243,171	△70,518
利息及び配当金の受取額	305	1,837
法人税等の支払額	△3,483	△3,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	△246,349	△72,480
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	100,000	500,000
有形固定資産の取得による支出	△330	△146
無形固定資産の取得による支出	△85,413	△20,281
投資有価証券の取得による支出	△2,675	—
差入保証金の差入による支出	—	△300
差入保証金の回収による収入	48,957	162
長期貸付けによる支出	△45,320	—
その他	△5	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,214	479,433
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	—	1,000
配当金の支払額	△1,152	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,152	990
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,240	3,146
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△235,528	411,089
現金及び現金同等物の期首残高	500,880	354,917
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 265,352	※1 766,007

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年6月26日開催の定時株主総会の決議に基づき、平成24年6月26日付けでその他資本剰余金のうち424,506千円を繰越利益剰余金へ振替いたしました。

なお、株主資本の合計金額には、著しい変動はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

1 前第3四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サー ビス	マーケテ ィング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	828,238	209,481	164,370	1,202,090	—	1,202,090
セグメント間の 内部売上高または 振替高	—	—	—	—	—	—
計	828,238	209,481	164,370	1,202,090	—	1,202,090
セグメント利益 または損失(△)	242,702	136,141	△75,626	303,217	△480,851	△177,633

(注) 1 セグメント利益または損失の調整額△480,851千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

調整額において、「eディテリング®」をはじめとする既存サービスの売上高の減少が主な要因となり、前々期(平成22年3月期)から2期連続で営業損失を計上し、第2四半期累計期間において営業損失を計上しました。これにより、既存サービスの販売促進ツールであるケアネット・ドットコム運営システムについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

加えて、当第3四半期累計期間において、前期(平成23年3月期)および当期(平成24年3月期)より赤字回復の施策として投入している新サービスの立ち上がりが計画に対して遅れていることにより、医療コンテンツサービスにおける医師会員向け動画配信システム、医薬営業支援サービスにおける病院および調剤薬局向けeラーニングシステム、医師向け医療情報提供およびアクセスデータ集計システム、症例集計データシステムの各ソフトウェアシステムについても帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては209,726千円であります。

2 当第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サー ビス	マーケテ ィング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	913,891	195,671	201,101	1,310,664	—	1,310,664
セグメント間の 内部売上高または振替高	—	—	—	—	—	—
計	913,891	195,671	201,101	1,310,664	—	1,310,664
セグメント利益	334,439	128,744	22,315	485,499	△432,522	52,976

(注) 1 セグメント利益の調整額△432,522千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

5. 補足情報

注記事項

(四半期貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
製品	5,483千円	4,809千円
仕掛品	24,567	13,296
貯蔵品	435	776

※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
投資その他の資産	－千円	10,081千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
現金及び預金勘定	915,352千円	766,007千円
預金期間が3カ月を超える定期預金	△650,000	－
現金及び現金同等物	265,352	766,007